

0753

號〇 三第博

年省密受第九九四號

近謀第ニ由ハ

共產主義宣傳ジハ配布ヲ發シタル件

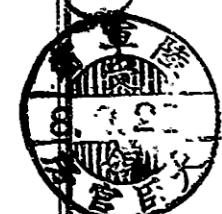
昭和八年九月廿二日

陸軍大臣

東木貞夫殿

首領一件別紙一通報告ス

8.9.26



陸軍

軍

恩

陸

軍

兵士ノ友一、配布ヲ受ケタル兵ニ關スル調書

(一)配布ヲ受ケタル兵

昭和七年正月廿九日
神田橋通御集会十中隊

小室龙明

(二)同 日時

昭和七年正月廿九日
神田橋通御集会十中隊

近藤義三

右九月十七日午前九時外出ヲ許可メラレ九段下ヨリ

神田日活館ニ至ル可ク神田一橋通り放世庫本部附近ヲ通行中該所ニ停止中、十五才位ノ判天ヲ着セル少年(自轡車ヲ携行)差出セル前記「兵士ノ友一」受領セルヲナリ本人ハ一體、廣告位ト恩ニ携、物ヘニ收納シ神田日活館ニ至り映寫ヲ觀覽シ午後三時半歸隊セルヲナリ

午後七時三十分頃外出ニ着用キル衣袴ヲ整頓セシトシ前記「兵士ノ友一」班内机上ニ置キタルヲ同班後備上等兵石田四郎之ヲ發見シ「胡」ナルヲ判断シ直ニ同中隊調査官徳藤特務曹長扁ケレ

云ノナリ

其後其出所ヲ石田上等兵及班光任安藤上等兵
ト調査、結果該等是前述ノ如ク申出タルモナリ

参考事項

一、本ハ全然廣告トノ思ヒ存リ之ヲ聞讀セサリ
コト調査、結果眞實ナルヲ認ム

一、松世軍一本部一附近ニト本人、外軍人ハ通行シア
ラサルト。他兵ニ熙拂セシヤ不詳ナル旨申出テ
タリ

兵士ノ友一=閏スル件

配布ニ受クル兵 繁備後歩兵等兵 大口武支

同 嘉時 濑草花屋敷附近
九月十七日前九時頃外出ヲ許可セラレ浅草ニテ活

動見物セントレ市電ヲ以テ雷門マテ至リ觀音堂ニ參拜
シ花屋敷ヲ經テ活動街ニ行カントシタル際 花屋敷附近
ニ於テ突然鳥打帽ヲ冠リ印判天ヲ着用シタル一見
勞働者風ノ少年(十六、セキ位)封書(表紙ニ「つばも
の玉手箱ト記載シアル)ヲ差出シ「新聞ヲ發行シ
居ラマスカガラ 読ンテ下サト」ト云フテ差出シタルヲ以テ
何一氣ナシニ之ヲ受領シ其儘持ノ物ニヘレ活動館
(梅竹館)=スリテ映畫ヲ見物シ午後四時頃歸隊シ
班内豫備兵ニ三名ニテ讀ミタル所左翼新聞ナルテ
ヲ知り直チ週番下士官相吉伍長ニ提出セリ

相吉伍長ハ中隊長ニ報告シテルモナリ

参考

花屋敷附近ニ於テハ他隊ノ兵モ外出中ニシテ受領シ
ヌル者アリシト思ワル(本ノ申ニミ)

三處圖

中隊長ヨリ思想委員長並ニ通音司令ニ通牒ラスル
以テ通音司令ハ各支隊調査士官ラシテ調査セシムト
其ニ思想委員長ヨリ各中隊長ニ通報シテ調査セシムト
レニ他兵ニ同印刷物ノ配布ヲ受ケタル者ナシ

「兵士ノ友一、配布ヲ受ケタル兵ニ關スル調書」

(一)配布ヲ受ケタル兵

昭和二十一年前月集

兵十中隊 小室龙四

(二)同

日時

九月十七日(日曜)

神田一橋通り

故世

軍本部前附近

右九月十七日午前九時外出ヲ許可シテ九段下界

神田日活館ニ至ル可ク神田一橋通り故世軍本部

附近ヲ通行中該所ニ停止申リ十五年位ノ判天ヲ着

セル少年(自轉車ヲ携行)差出ヒル前記「兵士ノ友

」ヲ受領セルモナリ本人ハ一禮、廣告位ト恩ニ携ノ

物ヘレニ収納レ神田日活館ニ至リ映寫ヲ觀覽シ

午後三時半歸隊セルモナリ

午後七時三十分頃外出ニ着用セル衣袴ヲ整頓セン

トシ前記「兵士ノ友」ヲ班内机上ニ置キタルヲ同班

後備上等兵石田四郎一之ヲ發見レ御制ナルヲ判

断レ直ニ同中隊調査官復藤特務曹長ニ届ケシ

モナリ

其後其出所ヲ石田上等兵及班光任安藤上等兵
ト調査、結果該一等兵前逃ノ如ク申一出タルモナリ

参考事項

- 一 来人ハ全然廣告トノ思ヒ存リ之ヲ聞讀セサリレ
下調査、結果眞實ナルヲ認ム
- 二 故世軍一本部附近ニト本人ノ外軍人ハ通行シア
ラサルト、他兵ニ配布セムヤ不許ナル旨申出テ
タリ

其二

陸

軍

「兵士ノ友」=闇スル件

配布ヲ受ケル兵

豫備役歩兵

大口武支

同

場所時日

九月十七日午前十一時頃
淺草花屋敷附近

右九月十七日午前九時頃外出ヲ許可セラレ淺草ニテ活
動見物セントル市電ヲ以テ雷門マチ至リ觀音堂ニ移轉
レ花屋敷ヲ經テ活動街ニ行カントシタル際花屋敷附近
之脇テ突然鳥打帽ヲ冠リ印刺天ヲ着用シタル一鬼
勞働者角り少年(十六七才位)封書(表紙ニ「つばも
の玉手箱」ト記載シアル)ヲ差出し「新聞ヲ發行シ
居マヌカカラ讀ンシ下サイ」と云フテ差出シタルヲ以テ
何ノ氣ナシニテ受領シ其儘持ノ物ニハレ活動館
(梅竹館)=アリテ映畫ヲ見物シ午後四時頃歸隊シ
班内豫備兵ニ三名ニテ讀ミタル所左翼新聞ナルヲ
ラ知り直下週番下士官相吉伍長ニ提出セリ

1940

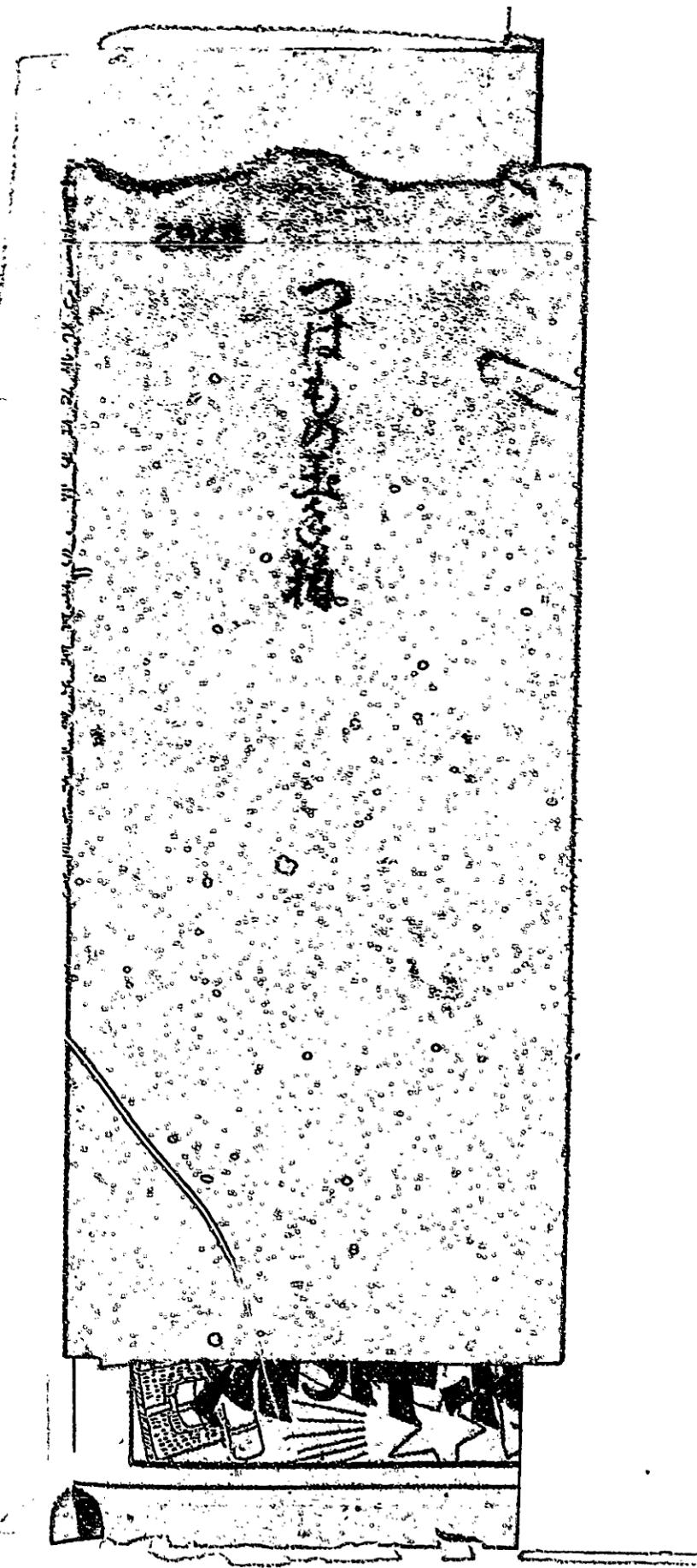
相吉伍長ハ中隊長ニ報告シタルモナリ

参考

花屋敷附近ニ於テハ他隊ノ兵モ外出中ニシテ受領レ
スル者アリシト思ワル(本申主)

参考

中隊長ヨリ恩摺委員長並通音司令官通牒シテ
以テ週番司^(ミ)ハ各中隊調査士官ヲシテ調査セシムシト
共ニ恩摺委員長ヨリ各中隊長ニ通報シテ調査セシムシト
ルニ他兵ニ同印刷物一覧表ヲ受ケタル者ナシ



アジア歴史資料センター



アジア歴史資料センター

説明ターゲット

次の原稿

不鮮明

0764 ~ 0765

3年 8月 6日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫



★勞・農・兵・の提携・萬歳!

ソヴェート干涉戦の一

公然の開始を準備する

殺人の教練演習體罰に

中隊、聯隊兵士委員會に團結して

大衆的サボを以つて抗議せよ



月二回 錄三一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

ト

干

涉

戰

の

一

ソ

ヴ

エ

説明ターゲット

次の原稿

不鮮明

| 0766~0767 |

3年 8月 6日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫



日鮮合併紀念日(八・廿九)を

朝鮮獨立の爲の闘争を以つて迎へる

朝鮮師團の撤廃を要求せよ

朝鮮師團兵士は内地歸還を要求せよ

内地への開港を要求せよ

龍山部隊原因調査委員会

同志××△子の

留置場内の英雄的闘争に學べ

一ハンスト・五日間一

同志××△子の

留置場内の英雄的闘争に學べ

兵士を人間並に取扱へ

第×師團步兵第×聯隊
初年兵 石堂



の教師權と云ふ奴か。「股肱」、「赤子」とはこんな残酷な體刑でしめつけた奴の事なのかな。
全國の兄弟たち
こんな残酷な體刑教育に反対しよう

この方法を取らなければ、金儲けの仕事は出来ない。だからこそ、金儲けの仕事は、士官です。労働者階級です。ブルジョアジーです。ブル政治家です。これが、うらめた百倍手堅く、クレジットカードによる、暴力的手段による、金儲けの仕事です。

百日不足で、あつても、我の演習の爲め、苛酷な教練にしては、反対興味を忘れては、心配と感ります。この事の根柢と、ひます。

二十四錢	カタバン生	基
二十四錢	ノツボ	
二十四錢	メガネ	
五 四	△口扱	金
六十三箇	△脚踏の巣	

自分は入営してから七ヶ月たくて休めないから休むと、

になつたと云つて××軍曹は
銃床で初年兵の頭をナクつて
血をながした。軍醫だつて其
の診断の時表面は眉を泡めた
が抗議もしない。みんな軍紀
が怖く「ひどい事をする」と
思つても黙つてゐる。近頃は
亦銃剣病、競技會の過備など
云つて朝から晩まで銃剣病で
ヒツベクかれ過しだ、眉から
眉まで涙がへんてしまつて、
ヘル持てない。もう駄がい
殺する者さへあるんだ。
全國の兄弟たち、俺達は上
うしてこんな酷い體刑を甘く
ねばならぬのか。下士官の體
刑を表面だけ濫ら面してなが
ら實際はこれを默認、否、成
績（）へて、獎勵支持してゐる
のは將校だぞ、口では黙つて
いかんと云つても一度だつて
俺達の前で下士を叱つた事が
あるか。このむごたらしい體
刑も「天皇の煩」が、不可無

つた日数が船等で書いてある。誰しも一日も早くシヤベへ出たい、それまで眼をひむつて黙つてゐるよ。と云ふのが齿の氣持だ。だが陰謀しても妨害が一つもならぬ。精闢な局では一應口の先で云つた手前、探して来るがそりがまづてひどい條件だ。すみで十圓から十五圓はまだいい方だ。しかも直ぐやめて售つては駄菓子の名譽に關するも

をし、ひる。旅は船を
この手を話し合ひ、雷雨
クロボウ事件はイヤだよ
所で、仕事だけな。
でに、仕事も日記も書く
るつもりだ。伏案が出来
あとは必ず机を離さない
うと自分がしのめる。
附註：就職の手がかり
ふくに就職バクコを
知らせて欲しい。日本
會を小さなセントラル
の棟にそはす。

は除隊の後
つと出るまでに
根をのこすが
第一師団××連隊

除隊の後
第一師団××聯隊

士官某、將校某の「人間が悪い」からではなく、資本家地主的な、軍事的警察的な天皇制そのものに由来するのです。アシスト將校共が反資本家的な假面で騒ぎたてゐる「統帥概」とは「兵士に對する天皇の支配権」の事であり、

私の隊は、間なので實にふらふらになってしまった。
將校や下士官は自分の成績を気にかけやうと、
無に無茶クチャでやります。

よ) 諸君の手や足位一本
くなつてもきつと結婚し
呉れる人もあらう。(キト
な娘だ!!) 諸君は安心し
検査に取組し、いたずら
(何がいたづらだ、生命が
の心配だぞー) 心配せず「

はこれまで少
く見
た記
事は、
これは未組織兵士か
らの手紙です。體罰、私物を
がせる事がある事に注意せら
ばなりません。

事は受合ふが然し「面会」とか「懇問」とかに来る者の中には斯る者がゐるから大いに注意しなければならん。

休憩したが、と古賀の見出迎がどんな者か、村長と鄉軍人分、分長のおくやみがどんなものかよく知つてゐる。俺達はあわれな廢兵を見てゐる。

傷病兵家族の生活を完結保証しろ。

傷病兵家族の租税、小作をまける、その弊が「赤いなら、乗せられるなどはよ無理で御座ろう!!

七月二十二日
第一衛戍病院長草醫監の訓示

（何がいたづらだ、生命が心配だぞ）心配せず「云々に乘せられぬ様に云々。
× × ×
この時傷病兵（還送患者）も一般患者も馬鹿々々しきて云ふ顔付で大抵は向ふでゐかつた。

祖擊

よ) 諸君の手や足位一本
くなつてもきつと結婚し
呉れる人もあるう(キト
な娘だ!) 諸君は安心し

一九一七年ロシアの青年労働者はスパラシイ闘争をして十月の勝利の前提をつくり出したのだ。

六十三錢
△
一四五十錢 カジセ
小計 一七四八十五錢
通計 六十八四九十九錢

基
金